

聖学院大学人間福祉スーパービジョンセンター主催・SWnet 共催 第19回ピア・スーパービジョン報告



上段：会場内の様子 下段：鼎談の様子と相川章子教授

2017年2月4日（土）、聖学院大学4号館第一・第二会議室を会場に、「第19回ピア・スーパービジョン」（聖学院大学人間福祉スーパービジョンセンター主催・SWnet [聖学院ウェルフェアネット・卒業生を中心とする福祉のネットワーク] 共催）が行われた。開会の挨拶を、牛津信忠氏（聖学院大学人間福祉学部人間福祉学科客員教授・前学部長）が務められた。総合司会を、山田裕太氏（SWnet）が務められた。

第1部の講演は、相川章子氏（聖学院大学人間福祉学部人間福祉学科教授）が担当された。引き続き行われた鼎談は、「講演を受けて、日々の実践にてらして」と題しつつ、田中光太郎氏、木下優輔氏、長谷川瑞紀氏がパネラーを務められ、相川章子氏がコーディネーターを務められた。その後、ランチ交流会を挟み、午後はピア・スーパービジョンを行った。また、柏木昭氏（聖学院大学名誉教授、総合研究所名誉教授、人間福祉スーパービジョンセンター顧問、社団法人日本精神保健福祉士協会名誉会長）が、ピア・スーパービジョンの総まとめを行った。最後に、閉会の挨拶を中村磐男氏（聖学院大学人間福祉学部特任教授・人間福祉スーパー

ビジョンセンター長）が担当された。

相川氏の講演題は、「ピアサポートとコミュニティ・インクルージョン～アメリカの実践および研究から～」であった。

コミュニティ・インクルージョンの「インクルージョン」（包含）は、地域の一員として、積極的に課題を受容したり、また参与したりするような行動的な概念を意味する。ただ地域にいる（being）だけではなく、行う（doing）ことが、コミュニティ・インクルージョンの大切な姿勢である。

ピアサポートは、コミュニティ・インクルージョンを形成するための「架け橋」（F・マシュー）となるものである。ピアサポートは、「仲間同士の支え合いの営みすべて」であり、「対等な関係」として、互いのつながりを意識し、かつ再構築することによって成立する。

ピアサポートの構築は、「語り」が重要な位置を持つ。語りを通して、互いの経験が語られることによって、自らのマイナスの経験が、他の人を勇気づけるプラスの経験へと価値転換が起り得る。このような「経験の語り」によって一人一人のリカバリストoryが紡ぎ出される時、リカバリーが、別の次なるリカバリーを生んでいくことにもなる。このような経験の共有と支え合いのピアサポートが、コミュニティ・インクルージョンを阻む要因を持つような文化・社会の在り方を変え、人と人をつなげ、偏見・差別の障壁を取り除き、地域社会の一員として歓迎する文化を構築する架け橋になっていく。このように、ピアサポート体制の充実、新たな文化を構築していく可能性を持っているのである。日本におけるピアサポートの理解及びサービスの構築は、甚だ不十分であるが、社会にとって不可欠なものであることは間違いない。そしてソーシャルワーカーは、ピアサポート導入の最大の促進者になるべきである。

以上のように相川氏は、力強く主張された。相川氏は、2016年8月から半年間の特別研究期間の

ために、アメリカ・フィラデルフィアに滞在されたが、この講演を通して、現地での体験に基づいた研究成果を、パワーポイントを通してふんだんに提示しつつ、非常に内容豊かに報告をされた。

鼎談は相川氏がコーディネーターを務め、本学の卒業生である田中氏、木下氏及び長谷川氏が、現場の状況を踏まえ、講演に対するレスポンスを行った。お三方とも、聖学院大学を卒業し、社会福祉の分野の第一線で働かれている方々である。聴衆からの質問にも、実体験を通じた応答をしていたことが印象的であった。また、熱心に意見を述べられていた聴衆もあり、講演に感化された様子がうかがえた。なお、鼎談を通して、日本におけるピアサポートの体制が以前整えられておらず、多くの課題に満ちている現実もまた、共有されたように思われる。

第2部の「ピア・スーパービジョン」では、少人数のグループに分かれ、スーパービジョンを行った。実際のピア・スーパービジョンの内容は議論の性質上割愛させていただくが、自己紹介を交え、なごやかな雰囲気の中、一人一人が率直な意見を出しあうと共に、現場で働くソーシャルワーカーが、立場を超えて聞きあい、他者の意見を否定することなく共有することを重んじていた様子が印象的であった。

グループ発表の後、柏木昭氏（聖学院大学名誉教授、人間福祉スーパービジョンセンター顧問）が総括を語られた。その中で、柏木氏は、ピアの意味を考え、ピアグループを積極的に構築していくことの重要性を指摘された。クライアントを主体として認めない時、ピアはその意義を失う。クライアントの自由と責任を尊重するために、ピアがあり、そのための挑戦を忘れないでいただきたい、と語られた。

閉会の挨拶を中村磐男氏（聖学院大学人間福祉学部特任教授・人間福祉スーパービジョンセンター長）が担当され、19回も、ピア・スーパービジョンの研究会を続けることのできた意義を述べられた。

出席者30名（講師含む）。

（報告者：五十嵐 成見 [いからし・なるみ] 聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士後期課程）